

C S F 発生時の防疫資材運搬について～オンデマンドな運搬体制の構築～

中央家畜保健衛生所 やまだまりこ 山田真理子 ほか

【はじめに】

本県では平成23年に高病原性鳥インフルエンザ（以下、HPAI）が発生したことを踏まえ、速やかに防疫措置を開始するため、必要な資材を備蓄している。

主な備蓄資材は防疫服や長靴といった動員者が身に着ける資材（図1）であり、備蓄場所は当所に隣接する県農業大学の旧学生寮の居室（図2）を活用している。

特定家畜伝染病が発生した際には、発生農場の規模等に応じてこれらの資材の必要量を算出し、農場周辺等に設置される「ベースキャンプ」と「現場詰所」に、運送会社が運搬することとしていた。平成31年2月に本県で発生したCSFは、この体制となって初めて備蓄資材を活用した防疫活動となった。

今回、本県でCSFの発生が継続する中、本運搬業務において、当初想定していなかった課題が明らかとなり、その対策を講じながら円滑な運搬体制を構築したので、その概要を報告する。



図 1.主な備蓄資材



図 2.旧学生寮の居室を活用した備蓄の様子

【課題】

防疫資材の運搬に係る業務は大きく分けて3段階あり、「CSF発生の疑い」時に、①必要資材の算出、②運搬事業者の確保、そして「CSF発生が確定」してから防疫措置開始までに③荷積み・荷下ろしとなる。

①では、動員者数と発生農場を所管する家畜保健衛生所（以下、家保）の在庫資材を考慮し、必要量を算出していた。しかし、防疫措置開始の準備が進む中、動員者数が変動してしまう、また、当該家保では業務で多忙となり、資材に関する対応が困難となったことにより、措置開始時に資材不足が生じた。

②では、事前に24時間連絡可能な運送会社を選定していたが、「CSF発生の疑い」時に依頼するとトラックやドライバーを確保できずに断られることや、トラックの大きさ等を指定できず、小さなトラックにより載せられない資材は公用車で運搬せざるを得ない等、

スムーズな資材運搬に支障をきたした。

③では、各居室に散在する備蓄資材を台車で集約し、トラックに手積みしなければならなかったため、非効率な作業となった。また、防疫措置開始の準備で多忙な中、トラック到着時間に合わせて荷積み・荷下ろし等のために職員を確保することが難しく、少数での対応となり、時間がかかることに加え、多大な労力を要した（図3）。



図3.少人数で資材をトラックへ手積みしている様子

【対策と効果】

①の課題については、あらかじめ動員者数の上限を決定し、当該家保の在庫を考慮しないこととして、必要量を定数化した。さらに、必要資材をリスト化し、行先や種類ごとに関連付けてパレットに積載し、パッケージ化することとした（図4）。これにより、初日の資材不足を防ぐことができることに加え、荷受者が整理しやすくなり、資材の行き違いも軽減された。また、フォークリフトを活用することで、業務の省力化につながり、③の課題も解消できた。さらには、資材のリスト化によって資材調達担当者と運搬内容の情報共有が可能となり、また、防疫措置の期間が短い事例では全期間分のパッケージをまとめて運搬することで、追加調達業務の軽減と歳出の削減も図ることが出来た。

一方、②の課題では、人材派遣事業者に24時間体制でトラックと運転手の確保を依頼することにより、必要な時に必要な資材を必要な量だけ運搬すること（オンデマンドな運搬）が可能となり、初動だけではなく全期間を通して円滑な防疫活動を支援できる体制を構築することが出来た。

期数	1	期数別台数	80									
期数		台数/台	8									
		総人数	1,200									
		総台人数	240									
		発生日数	42日(待機休業3日)									
期数	品名	用途	単位	数量	運搬機		主要機材		必要機材		必要機材	
					台数	必要量	台数	必要量	台数	必要量	台数	必要量
1	BC	埼玉県熊谷市 熊谷市立病院	台	32	足	18	台	12.0	2	18	台	12
2	BC	埼玉県熊谷市 熊谷市立病院	台	99	足	40	台	12.0	7	40	台	12
3	BC	埼玉県熊谷市 熊谷市立病院	台	71	足	36	台	12.0	5	36	台	12
4	BC	埼玉県熊谷市 熊谷市立病院	台	7	足	3	台	12.0	1	3	台	12
5	BC	埼玉県熊谷市 熊谷市立病院	台	10	足	10	台	10.0	1	10	台	10
6	BC	埼玉県熊谷市 熊谷市立病院	台	40	足	40	台	10.0	4	40	台	10
7	BC	埼玉県熊谷市 熊谷市立病院	台	80	足	80	台	10.0	8	80	台	10
8	BC	埼玉県熊谷市 熊谷市立病院	台	60	足	60	台	10.0	6	60	台	10
9	BC	埼玉県熊谷市 熊谷市立病院	台	10	足	10	台	10.0	1	10	台	10
10	BC	埼玉県熊谷市 熊谷市立病院	台	5	足	5	台	10.0	1	5	台	10
11	BC	埼玉県熊谷市 熊谷市立病院	台	1	足	1	台	10.0	1	1	台	10
12	BC	埼玉県熊谷市 熊谷市立病院	台	1	足	1	台	10.0	1	1	台	10

図4-1.資材のリスト化



図4-2.行先・種類ごとにパッケージ化



図4-3.保管



図4-4.発生時にフォークリフトで荷積み

【今後の取組】

HPAIや口蹄疫等の発生にも備え、CSFパッケージと共通な資材と畜種の違いで異なる資材を明らかにし、それをオプションとして加えることでさらなる運搬体制の強化を図っている。

また、備蓄スペースや管理業務の軽減に向け、防疫資材取扱事業者と調整し、当該事業者が防疫措置初日に必要となる資材をパッケージ化し運搬する、在庫を持たない仕組みの構築も進めている。